

峯 畑 遺 跡

第6次発掘調査

筑紫野市文化財調査報告書 第74集

2002

筑紫野市教育委員会

例 言

1. 本書は、専用住宅建築に伴う埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
2. この調査は筑紫野市教育委員会が、国庫補助を受けて実施した。
3. 調査対象地は筑紫野市紫1丁目536番2である。
4. 確認調査から発掘調査着手までの事前協議は、渡邊和子（教育委員会文化課文化財担当技師）が行った。
5. 調査担当者は、吉田高穂（教育委員会文化課文化財担当技師）である。調査にあたっては奥村俊久（同主査）の助言を受けた。
6. 現地での調査にかかる実測は奥村と吉田が行い、写真撮影は吉田が行った。
7. 出土遺物の実測及び写真撮影は吉田が行った。
8. 製図は吉田が行った。
9. 調査地点までの基準点及び水準点移動は㈱イーディシーに委託した。
10. 遺構については単体で完結すると考えられるものについては頭にSを冠し1から通し番号を付け、単体で完結しないと考えられるピット等については頭にPを冠し同じく1から番号を付した。
11. 報告にあたっては遺構の性格付けを行い、土壌にSKの略号を与え、その後に現場で付した番号をそのままに付した。
12. 本遺跡の調査は、国庫補助を峰遺跡IIで申請したが、峯畑遺跡の範囲に含まれることが明らかとなった。このことから整理段階より峯畑遺跡第6次調査の名称を用いた。
13. 本書の執筆・編集は吉田が行った。

目 次

I 調査に至る経過	1
II 位置と環境	1
III 調査の内容	6
IV まとめ	7

挿 図 目 次

第1図 峯畑遺跡周辺遺跡分布図（縮尺 1/25,000）	2
第2図 峯畑遺跡周辺地形図（縮尺 1/2,500）	3
第3図 峯畑遺跡第6次発掘調査遺構配置図（縮尺 1/100）	4・5
第4図 出土遺物実測図（縮尺 1/2）	7

I 調査に至る経過

平成11年12月7日付で、専用住宅の新築に伴う筑紫野市紫1丁目536番2の文化財の有無についての照会が松尾潔氏からなされた。当該地は峯畑遺跡という周知の埋蔵文化財包蔵地であり、近隣で遺構が確認・調査されていることから筑紫野市教育委員会は、12月16日に確認調査を実施した。その結果、柱穴などの遺構が検出され、その旨を12月20日付けて回答した。教育委員会は文化財保護法にかかる必要な手続きをとることを指導した。平成12年1月12日付けて、文化財保護法第57条の2第1項の規定による埋蔵文化財発掘の届出が提出され、教育委員会は直ちに県教育委員会に進達した。2月4日付けて、県教育委員会から松尾潔氏に工事着手前に発掘調査を実施するよう通知があった。この通知を受け、松尾潔氏は12年2月10日筑紫野市教育委員会に文化財発掘調査委託申請書を提出した。教育委員会は、これを受け、原因が自己専用住宅であることから、国庫補助を申請し、平成13年度事業で調査を実施することとした。現場での発掘調査の期間は平成13年9月7日から10月3日までである。

II 位置と環境

筑紫野市は、福岡市と久留米市のほぼ中間に位置する。東に三郡山地、西に脊振山地が迫る狭長な平野部を有し、古来より福岡平野と筑後平野を結ぶ交通の要衝であった。

三郡山地の南に位置する宝満山から派生する丘陵の南西端は、開析され、いくつかの小規模な丘陵に枝分かれしている。峯畑遺跡はその丘陵の西端に位置する。平野部に面する丘陵先端部分には、修理田遺跡⁽¹⁾、通り浦遺跡⁽²⁾⁽³⁾、五穀神山遺跡⁽⁴⁾、カケ塚遺跡⁽⁵⁾、野黒坂遺跡など多くの弥生遺跡が存在する。峯畑遺跡は、それらの遺跡の中で最も北側に位置する。また、この遺跡の北には大野城があり、眼下には推定大宰府条坊跡が広がっているが、本遺跡もその条坊域内に含まれる。

峯畑遺跡は、昭和61年から今回の調査を含めて6次にわたる調査が行われた。これまでに、円形の竪穴式住居跡や貯蔵穴など弥生中期初頭から前葉と考えられる遺構のほかに小児用甕棺墓、木棺墓などが検出されており、弥生時代を主とする遺跡である⁽⁴⁾。また、黒曜石製ナイフ型石器や剥片が出土し⁽⁴⁾、9世紀初頭前後と考えられる火葬墓も発見されている⁽²⁾。さらに遺物は現存していないが安政4年(1857)には甕棺墓から、中細形銅剣と星雲文鏡が出土した記録がある⁽⁶⁾。

峯畑遺跡第6次調査地点は、峯畑遺跡の南端にあたる。丘陵の縁辺部で、調査地点付近から下り始める。東には小さな谷があり、西も平野部が開けており、丘陵の南に突きだした部分にある。現在は民家が建ち、樹林が繁っているが、かつては西と南は視界が開けていたと思われる。

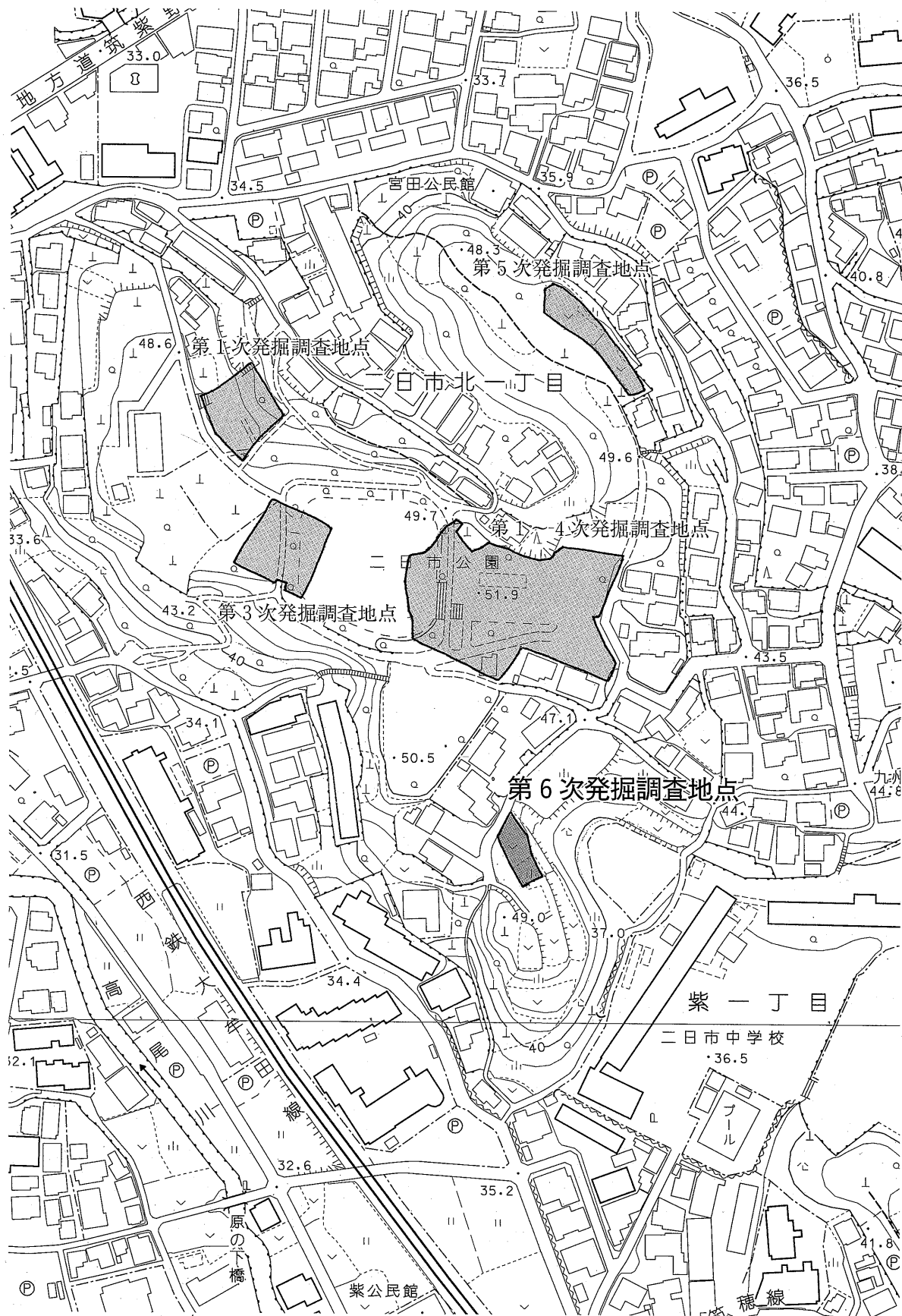
註

- (1) 「修理田遺跡」 筑紫野市文化財調査報告書第5集 筑紫野市教育委員会 1980
- (2) 「通り浦遺跡・剣塚遺跡」 筑紫野市文化財調査報告書第10集 筑紫野市教育委員会 1984
- (3) 「通り浦遺跡II」 筑紫野市文化財調査報告書第24集 筑紫野市教育委員会 1990
- (4) 「筑紫野市史 資料編(上) 考古資料」 筑紫野市 2001
- (5) 「九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告X XIV」 福岡県教育委員会 1978
- (6) 「鉾之記」 鹿島九平太



第1図 峯畑遺跡周辺遺跡分布図 (縮尺 1/25,000)

1. 大宰府条坊跡 2. 大宰府政庁跡 3. 観世音寺 4. 剣塚遺跡・剣塚古墳 5. 杉塚廃寺
6. 唐人塚遺跡・古墳群 7. 脇田遺跡 8. 前田遺跡 9. 塔原遺跡 10. 桶田山遺跡
11. 武蔵寺跡 12. 道場山遺跡 13. 二日市宿跡 14. 堀池遺跡 15. 峯畑遺跡 16. 修理田遺跡
17. 通り浦遺跡 18. 五穀神山遺跡 19. 八隈遺跡 20. 畑添遺跡 21. 原口古墳
22. 鷺田山遺跡 23. かけ塚遺跡Ⅰ 24. かけ塚遺跡Ⅱ 25. 大曲り遺跡 26. 針摺遺跡
27. 野黒坂遺跡



第2図 峯畑遺跡周辺地形図（縮尺 1/2,500）



第3図 峯畑遺跡第6次発掘



調査遺構配置図(縮尺 1/100)

※ピット番号は、頭の略号Pを略す。
※アミ掛けは後世の攪乱

III 調査の内容

309.58m²を発掘調査し、土壌とピットを検出したが、調査対象地全体が削平をうけており遺構の残り具合は非常に悪く、深さも数cm程度のものがほとんどであった。排土置き場、休憩所も調査対象地内で確保する必要があったため、まず南側半分を調査し、その後反転して北側半分を調査した。

遺構（第3図）

SK-1は、1.54×1.1m、深さ0.12m、隅丸長方形に近いプランを呈し、底面はほぼ平坦である。遺物は出土していない。

SK-7は、0.65×0.45m、深さ0.11m、隅丸長方形プランを呈し、底面は平坦である。弥生土器片が出土している。

遺構は、残りが浅いため明確に区分できないものも多い。その中で、規模をもとに確認できたものとして土壌が10基、ピットが52ある。

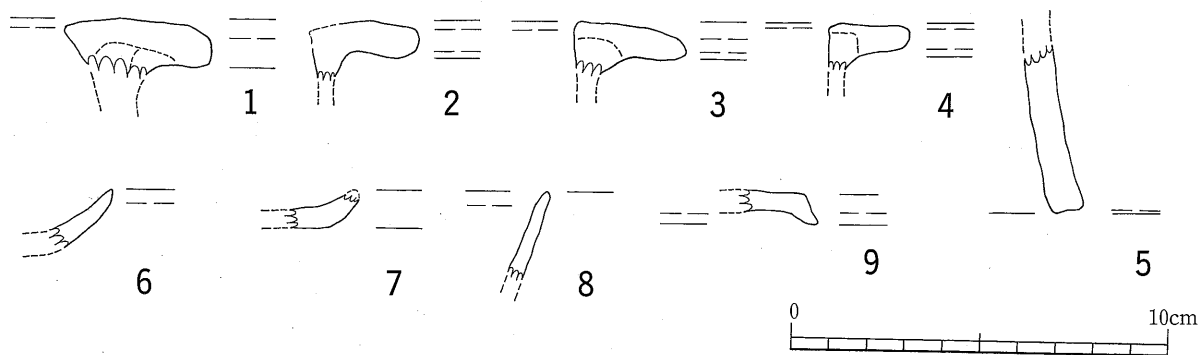
遺物（第4図、図版2）

遺物は、土壌とピットなどから出土しているがほとんどが細片で、摩滅が激しく識別が困難なものが多い。その中で、比較的大きく残りのよいものを図に示す。1は検出面、2はP-23、3はP-30、4はP-11、5はP-28、6はSK-7、7は東段落ち、8はP-18、9は攪乱から出土している。

1～4は、弥生土器の甕の口縁部である。破片資料のため口径は不明である。また、摩滅が激しく、調整痕も不明である。2～4の断面は、逆L字状を呈するが、平坦面はほぼ水平で、外側への張り出しも未発達なことから、須玖I式でも古い段階のものと思われる。1も内側への張り出しが未発達なので他のものと時期的な差はあまりないと思われる。5は、弥生土器の器台の底部片である。外面と底端部に赤色顔料が塗られている。6は、土師器小皿口縁の破片で、7は同じく底部から口縁にかけての破片である。7の底部は糸切りである。共に細片のため径は不明である。8は、須恵器で杯身の口縁部、9は、蓋の端部と思われる。

この他に、遺構検出時に青磁の細片を採集している。

ただし、遺構からの遺物出土状況には若干考慮すべき点がある。検出された遺構は、土器などが混入する2次的な層に掘りこまれている。このため遺構の掘削においては若干の掘り過ぎなどが考えられ、この層からの遺物が混入しているかもしれない。この2次的な層に含まれる遺物はほとんどが弥生土器の細片であり、明確に土師器、須恵器などと確認できる破片は見あたらない。



第4図 出土遺物実測図（縮尺 1/2）

IV ま と め

今回の調査では、遺構の残りが浅く、遺物も細片で摩滅が激しいため、遺跡の時期や性格など詳細については明確ではない。

遺構は、風化が進み比較的締まった花崗岩バイラン土の層に掘りこまれており、当初はこれを地山と認識していた。しかし、検出面や、この面から掘りこまれた遺構の壁面、底面からも遺物片が見つかったことから、遺構は2次的な層に掘りこまれたものであり、下層にも遺構がある可能性が考えられた。そこで、上面の調査が終わったところで調査区内にトレンチを設定して掘り下げてみたところ、50cmほど下から八女ロームの地山が検出された。この部分にも僅かにピットが認められたが、残りが2～3cm程度と浅く、全体に削平を受けていると推定されたため、トレンチによる遺構確認に止めた。

また、今回調査した地山の上に堆積している層は、赤褐色の花崗岩バイラン土だが、にごりや混ざりはほとんどなく、均質な層に見える。また、含まれる遺物は弥生土器の極めて小さな破片のみである。

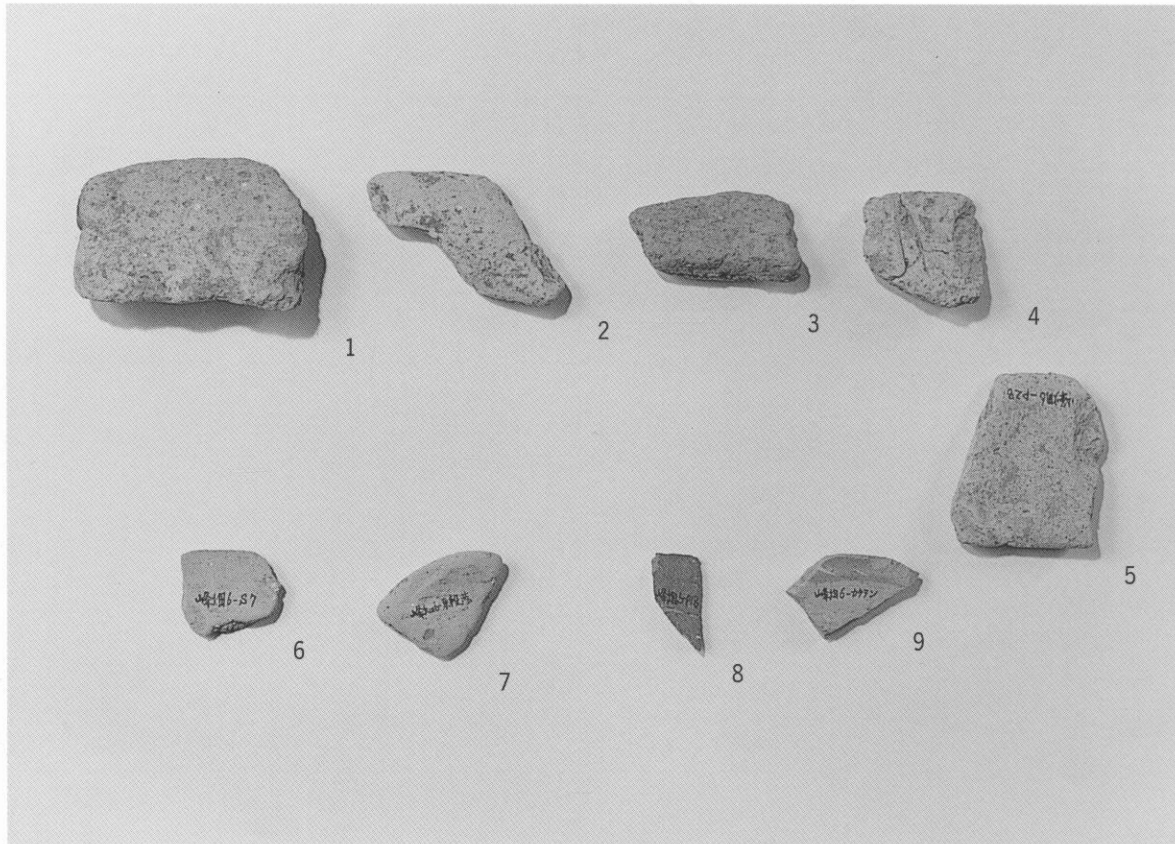
以上のことと、調査地の立地が、峯畑遺跡のある丘陵の中でも縁辺でやや傾斜し始めていること、土師器片など中世の遺物は上面からのみ認められることから、本遺跡は、中世以降に何らかの要因で土が動かされ、そこにピットなどの遺構が掘りこまれたものと考えられる。



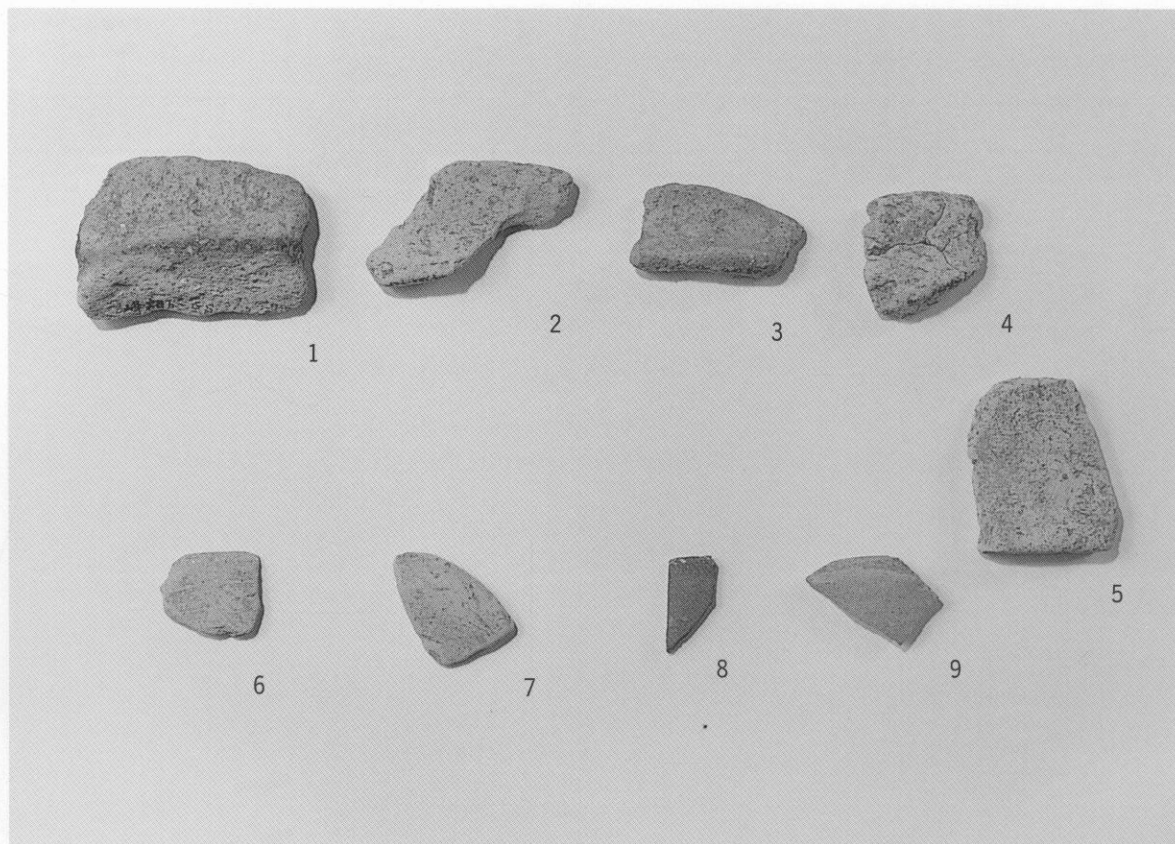
1. 遺跡全景・南側



2. 遺跡全景・北側



1. 出土遺物 (表)



2. 出土遺物 (裏)

※番号は挿図中の番号に同じ

報 告 書 抄 録

ふりがな	みねはたいせきだいろうくじはつつちょうさ							
書名	峯畑遺跡第6次発掘調査							
副書名								
巻次								
シリーズ名	筑紫野市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第74集							
編集者名	吉田 高穂							
編集機関	筑紫野市教育委員会							
所在地	〒818-8686 福岡県筑紫野市二日市西一丁目1番1号 TEL 092 (923) 1111(代)							
発行年月日	平成14年3月29日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
みねはたいせき 峯畑遺跡	ふくおかけん 福岡県 ちくしのし 筑紫野市 むらさきいちじょうめ 紫一丁目	402176	170072	33° 29' 45"	130° 31' 26"	010907) 011003	309.58	専用住宅
所収遺跡名	種別	主な時代	主 な 遺 構		主 な 遺 物		特 記 事 項	
峯畑遺跡		中世以降	土 壙		弥生土器 土師器小皿			

峯 畑 遺 跡

第 6 次 発 掘 調 査

筑紫野市教育委員会文化財調査報告書

第74集

平成14年3月29日

発 行 筑 紫 野 市 教 育 委 員 会

〒818-8686 福岡県筑紫野市二日市西一丁目1番1号

TEL 092-923-1111(代)

FAX 092-923-9644

印 刷 大 同 印 刷 株 式 会 社

〒840-0815 佐賀市天神一丁目1番32号

TEL 0952-24-8450(代)

FAX 0952-28-5583

URL <http://www.daidou-jp.com>.